

## 解答解説

1

## 解答

- 1 完新世    2 弓矢    3 骨角器    4 『漢書』地理志  
 5 『後漢書』東夷伝    6 前方後円墳    7 群集墳    8 新嘗祭  
 9 太占    10 姓    11 伴造    12 国造

2

## 解答

- 問1    1 磨製    2 竪穴住居    3 屈葬    4 石包丁    問2 石鏃  
 問3 貝塚    問4 アニミズム    問5 土偶  
 問6 前期は湿田が中心であったが、後期には生産性の高い乾田の開発が進んだ。  
 問7 環濠集落

## 解説

- 問1    1 石を打ち欠いただけの打製石器に対し、磨いて仕上げるという工程を加えた石器を磨製石器という。日本では、縄文時代頃から広く普及した痕跡が見られる。  
 2 地面を掘り下げて床面を造り、その上に屋根をかけた住居を竪穴住居という。縄文時代から奈良時代にかけて、一般民衆の住居として使用された。  
 3 死者の手足を折り曲げて葬る屈葬は、縄文時代に多く見られる埋葬形式であり、死者の霊を鎮めるために行われたと考えられている。  
 4 弥生時代前期、稲の収穫の際に使用された石器は石包丁である。稲作伝来後しばらくは、稲の穂先を摘み取る穂首刈りで収穫された。  
 問2 矢の先端には、鋭く尖らせた石鏃が付けられた。縄文時代に使用された石鏃は、小型の打製石器が多く見られる。  
 問3 縄文時代には、食料の獲得方法が多様化したことで、定住的な生活が始まった。貝殻を中心とする食物遺物や土器・石器などの人工遺物が廃棄されて形成された遺跡を貝塚という。貝塚はいわば“ごみ捨て場”ともいえる場所で、多くは縄文時代に形成されており、主に海岸地域に残されている。  
 問4 縄文時代は自然物や自然現象に靈魂の存在を認めるアニミズムの影響下にあり、多様な呪術的行為がなされた。  
 問5 土偶は、縄文時代に作られた土製の人形のことであり、女性をかたどったと思われるものが多く、生殖や収穫を祈る呪術的儀式用に作製されたと考えられている。

## 問 6

## 解答の組立て

▶ 着目点：弥生時代に開発された水田の「変化」が問われているので、「AがBに変わった」ということを明記しよう。

- .....
- 弥生時代前期…湿田が多く開発された。
  - 弥生時代後期…乾田の開発が進んだ。

弥生時代の農耕は、初め**湿田**と呼ばれる低湿地で行われ、木鍬や木鋤などで耕作したのち**籾**を直播したと考えられている。湿田は、大規模な灌漑施設は必要ないものの生産性は低かった。後期に入ると、鉄の刃先を付けた鍬・鋤や鉄鎌などの**鉄製農具**が普及したため、これまで開墾できなかった微高地にまで水田を作ることが可能となり、水路などの大規模な灌漑施設を伴った**乾田**の開発が進み、生産性は飛躍的に向上した。

問 7 弥生時代には複数の住居が集まり集落が構成された。集落の周囲を濠・土塁などで囲んだものを**環濠集落**と呼ぶ。環濠集落の跡は、吉野ヶ里遺跡（佐賀）や唐古・鍵遺跡（奈良）などに見られる。

## ▼主な縄文・弥生時代の遺跡

	遺跡名（所在地）	主な特徴
縄文	三内丸山遺跡（青森）	長期間継続した大規模な集落跡
	大森貝塚（東京）	モースにより調査
弥生	板付遺跡（福岡）	縄文晩期～弥生初期の水田跡
	菜畑遺跡（佐賀）	縄文晩期～弥生前期の水田跡
	唐古・鍵遺跡（奈良）	大規模な環濠集落跡
	吉野ヶ里遺跡（佐賀）	大規模な環濠集落跡
	登呂遺跡（静岡）	水田跡。大量の木製農具が出土
	神庭荒神谷遺跡（島根）	大量の銅剣・銅鐸・銅矛が出土
	紫雲出山遺跡（香川）	高地性集落跡

3

## 解 答

問 1 仏・法・僧

問 2 豪族に天皇への服従を説いた。

問 3 憲法十七条

問 4 1 飛鳥寺

2 曇徴

問 5 イ

問 6 鞍作鳥

## 史料

### A 憲法十七条

**キーワード** 「和を以て貴しと為し」「篤く三宝を敬へ」「詔を承りては必ず謹め」

**出典** 『日本書紀』

『日本書紀』は、奈良時代の720（養老4）年に成立した日本の歴史書で、神代から持統天皇までの日本を、天皇中心に記述している。

本史料は、推古天皇の下で604年に制定された憲法十七条の一部である。

## 解説

問1 史料A中の「三宝」とは**仏教**のことであり、「三宝とは**仏・法・僧**なり」と記されている。ヤマト政権では、6世紀半ば以降、大連の物部氏と大臣の蘇我氏が朝廷の主導権や仏教の受容をめぐる対立し、587年に蘇我馬子が物部守屋を倒したことで、仏教受容派（崇仏派）の蘇我氏が政治権力を握った。推古天皇の下では、天皇の甥の**厩戸王**（聖徳太子）と大臣蘇我馬子らが協調して様々な政治改革を進めた。とくに厩戸王は仏教への信仰が篤く、推古朝では仏教の興隆がはかられた。史料Aの憲法十七条においても**仏教を重んじることが**説かれている。

問2 史料Aの憲法十七条の「三に曰く」に続く「詔」とは**天皇の命令**のことであり、「君」は天皇、「臣」は官人である豪族のことをさす。つまり、官人である豪族に対して、**天皇へ服従することを**説いている。

問3 史料Aは、推古朝の604年に制定された**憲法十七条**である。仏教の尊重や天皇への服従などが述べられており、**豪族に対して官人としての心構えを示している**。

問4 1 飛鳥時代、仏教が流入すると、氏族の寺院である**氏寺**を建立する豪族が現れた。蘇我馬子は、588～596年に、蘇我氏の氏寺として**飛鳥寺**（法興寺）を建立した。半跏思惟像で知られる**広隆寺**は、秦氏の氏寺であり、603年に**秦河勝**により建立された。

2 7世紀前半、渡来人により朝鮮半島・中国の文化が伝えられ、新たな技術がもたらされた。602年に来日した百済の僧**観勒**は**暦法**や天文・地理などの書を、610年に来日した高句麗の僧**曇徴**は**絵の具・紙・墨の製法**を伝えた。

問5 **飛鳥文化**は、古墳時代に渡来人がもたらした文化が、仏教の受容を受けて結実・開花した文化といえる。高句麗・新羅・百済の朝鮮半島の文化と中国南北朝文化の影響が濃く、日本初の**仏教文化**であること、また法隆寺の柱の建築様式であるエンタシスや、工芸作品に見られる**忍冬唐草文様**など、中国大陸を通じて伝わった西域の文化の影響も見られることが特色である。

問6 飛鳥時代の仏師である**鞍作鳥**（**止利仏師**）は渡来人**司馬達**等の孫とされ、623年に「法隆寺金堂**釈迦三尊像**」を制作した。これらは**北魏様式**の典型的な飛鳥仏である。

M · E · M · O